

【森林保全部門】

景勝地近傍での景観に配慮した工事とその効果 ～奥祖谷二重かずら橋における事例～

徳島森林管理署 治山技術官 ○藺 敏弘
治山グループ係員 櫻井 拓海

1 課題を取り上げた背景

環境負荷や騒音問題など、配慮すべき事柄が多様に喧伝される現代にあって、土木工事においても課題に対応すべく様々な工法が日々開発されているところです。我々が計画する治山工事についても、工事箇所に応じて配慮すべき事柄が大きく変わります。

今回は、国有林内の観光地である奥祖谷二重かずら橋の近傍で行った山腹工事での景観に配慮した事例の紹介と、観光客に対する現地状況へのアンケート結果に基づいた施工効果の評価について報告します。

2 取組の経過

奥祖谷二重かずら橋（写真1）は、徳島県三好市東祖谷菅生にある景勝地であり、下流に位置する祖谷のかずら橋よりもさらに奥地の秘境にかかる二重の奇橋と優れた景観を求め、毎年延べ3万人ほどが訪れます。

令和元年7月の集中豪雨により橋の近傍の山腹斜面が表層崩壊を起こし、令和6年度に復旧治山工事を行いました。その際に景勝地であることを踏まえ、現地の立木を残したまま施工が可能な頭部連結型の鉄筋挿入工と土壌藻類活用型の植生マットを用いた工法を採用しました（写真2）。

今回、紅葉シーズンに合わせて奥祖谷二重かずら橋の料金所で観光客を対象にアンケート調査を



写真1 奥祖谷二重かずら橋



写真2 施工地の様子

実施し、現地状況と工事前後の写真等を比べた本工法の見栄えや、景観配慮にかかるべきコストの線引きについて一般の方の意見を伺いました。

3 実行結果

アンケートでは「問1：工事施工箇所が周囲と馴染んでいるか」「問2：今回使用した工法と表層崩壊への処置として一般的に使用される簡易法砕吹付工を比較した場合の見栄え」「問3：金銭的観点も踏まえたうえでの景観に配慮すべき範囲」の3項目について質問を行いました（問3は複数回答可）。

アンケートの実施期間は令和7年10月16日から11月11日までで、37件の回答を得ることができました。結果は表1のとおりとなり、問1では馴染んでいる・そのうち馴染むと思うと答えた方が86%、問2では有効票のすべてで今回使用した工法が良いという回答が得られました。問3では有効票の97%が何かしらの条件において配慮すべきであると回答しました。

問1	
馴染んでいる	13
そのうち馴染むと思う	19
馴染んではないが気にならない	3
馴染んでいない	2
問2	
今回採用した工法	32
一般的な工法	0
無回答	5
問3	
全ての工事で景観配慮を優先	7
道路沿いなど人目に付く箇所	3
山奥など自然の多く残る箇所	12
景観を重視する観光地など特定箇所	13
全ての工事で費用を抑えることを優先	1
無回答	4

表1 アンケートの集計結果

4 考察

アンケートの結果より、本施工地での景観配慮の試みは期待したとおりの効果を発揮していると言えます。景観への配慮を求める声は多く、アンケート期間中に現地で直接伺った意見の中には「どんな観光地であってもコンクリート張りの白い構造物が目立つとそちらに目がそれてしまい、現地体験の没入感を損なう」といったものもありました。

以上を踏まえると、景勝地に対する景観配慮は来訪者からコストをかけてでも行うべきであると認識されており、有意義な取組であると言えます。ただし、景勝地以外での配慮の必要性については今回の結果から断定できないため、配慮が必要となる条件を検討していくことが今後の課題と考えます。